

## 平成26年度 連携・協力事業の実施状況について

教員研修専門部会

## 【プロジェクト名】 学校マネジメント研修

## 1 プロジェクトの目的・概要

学校を活性化させるカリキュラムマネジメントの考え方について理解を深め、「教育方法学・カリキュラム学」からのアプローチを図ることができるように、また、学校内外で求められる種々の連携・協力(教員間での協力、学校と地域の連携、学校と外部組織の協力関係構築)に培う学校改善が実現できるように、学校マネジメント研修を実施する。

平成26年度から、「学校マネジメント講座」(専門研修)を、県教育センターの「新任指導教諭研修」(基本研修)と「新任主幹教諭研修」(基本研修)の合同講座として、連携を図りながら実施する。

## 2 H26年度の実施実績

研修等の内容については、以下のとおりである。

- (1) 教育センター「学校マネジメント講座」(「新任指導教諭研修」「新任主幹教諭研修」と合同開催)

ア 日時 平成26年6月26日(木)

イ 対象 小学校・中学校・県立学校の新任指導教諭、小学校・中学校の新任主幹教諭を含めて67名

(学校マネジメント講座受講者5名 小3名/中1名/県立1名)

(新任指導教諭研修47名 小28名/中11名/県立8名)

(新任主幹教諭研修15名 小11名/中4名)

ウ 趣旨 学校を活性化する組織マネジメント及びカリキュラムマネジメントの考え方について理解を深める。

エ 講師 川上泰彦先生(佐賀大学准教授)

- (2) 研修内容

①マネジメントとは何か?	講義
②なぜマネジメントは難しい?	講義
③ミドルリーダーとしてのマネジメント	講義・演習
④組織を読み解く	講義
⑤組織の中で、どう働きかけるか	講義・演習
⑥「大人」のコミュニケーション	講義・演習

- (3) 研修講座アンケート(H26.6.26)

受講後のアンケートでは、ほぼ全員が「よい」「だいたいよい」に評価をした。具体的な意見・感想については、次のとおりである。

**【この研修を振り返り、今後、業務に取り入れていきたいと思ったことや参考にしたこと】**

- ・ ケースメソッドはとてもいい勉強になりました。実際に学校現場であり得ることばかりで、真剣に考えさせられた。校内研修で活用したい。
- ・ 学校における現有資源を見極め、有効活用しながらマネジメントをしていきたい。
- ・ 管理職だけがマネジメントするわけではないことがよく分かった。
- ・ 講義と演習は、自分の立場や勤務校により当てはめて考えることができ充実したものとなった。
- ・ 演習は、実際に身近にある課題に似ていたもので、しっかり考えた。改めてマネジメントの大切さ、見方、考え方に気付かされた。現場でも少しでも意識して取り組みたい。
- ・ マネジメントという考え方を取り入れることで、組織が変わることができるという話を聞き、今後の業務に取り入れていきたい。
- ・ 「中心になること」よりも「他の人同士のつながりを作っておく」ことがより重要であるとの認識が深まった。
- ・ 「つなぐ」役割で、自分でどう動くべきかを考える、きっかけになった。

27年度は、半日開催で、2つの研修でマネジメント研修を設定する。幅広く満足してもらえるような研修内容にするためにも、講師と十分連携して、内容の充実に努めていきたい。

### 3 H27年度の実施計画

27年度より、「新任主幹教諭研修」と「ミドルリーダー養成研修」の中にマネジメント研修をそれぞれ設け、本連携・協力事業として位置付ける。

教育センター「新任主幹教諭研修」「ミドルリーダー養成研修」（基本研修）

- ① 日時 平成27年6月18日(木)13:00～16:20、7月2日(木)13:30～16:30、
- ② 講師 川上泰彦先生（佐賀大学）
- ③ 内容

「新任主幹教諭研修」では、魅力ある学校づくりのための主幹教諭リーダーシップ論についての講義・演習を行う。

「ミドルリーダー養成研修」では、課題解決に向けたミドルリーダーシップ論についての講義・演習を行う。どちらの研修も演習を効果的に行う。

- ④ 備考

事前の打ち合わせを行い、受講者のニーズに合った講義・演習の内容の充実を図る。今年度まで、人数が多く演習に他のグループでどんな話合いになったのかを知りたいという声も多く上がっていた。27年度は、最大50名程度を予定しており、話し合った内容を発表するか、記入したワークシートを配布するなど工夫ができそうである。「ケースメソッド事例集」を用いた演習は大変好評で、これをベースに、各グループの話界の時間を確保した演習となるようにしたい。このことを講師の先生に事前に伝えておく。